

- ▶ 会長就任のごあいさつ 齋藤 環 1
- ▶ 副会長就任のごあいさつ 井利由利 2
- ▶ 大学研究協力 2
- ▶ 会費等報告 / 2020年度決算報告 3
- ▶ 補助・助成事業完了報告 / CENTER NEWS 4

会長就任のごあいさつ

公益社団法人青少年健康センター
会長 齋藤 環



このたび、理事会の皆さまのご推挙をいただきまして、青少年健康センター会長の重責を務めさせていただくことになりました。創立36年の伝統ある当センターの運営に会長の立場に関わるには、まことに微力ではございますが、会員の方々のご指導・ご鞭撻をとおしながら責務を全うしていく所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1985年に当センターが発足した当時、私はまだ筑波大学医学専門学群の5年生でした。稲村博先生のお誘いで大学院の旧稲村研究室に所属するようになり、精神科医として北の丸クリニックで診療に従事しつつ、1998年からはひきこもり家族会を主催してきました。当時はまだ青葉台ハウスや小日向ハウスなどで宿泊型の支援が行われており、定期的に医療チェックに通ったり、茗荷谷クラブの夏合宿に参加したりするなど、さまざまな形でセンターの活動に関わってきました。最近では家族会をリニューアルしてオープンダイアログの実践の一部取り込んだ「ひきこもりダイアログ」として開催を続けています。それにしても、ずっと若輩者の気分でしたが、気がつくとも今年でいよいよ還暦と、時の流れの早さには唖然とするばかりです。

青少年健康センターは、不登校やひきこもりに限らず、さまざまな青少年問題に取り組んできました。私自身は創業者である稲村博先生の影響もあり、ほぼひきこもり支援に限定して活動してきた経緯があります。稲村博先生は日本に自殺学を導入した第一人者であり、ひきこもりの概念を実質的に見出した功労者でもあります。私は先生の門下で多くのひきこもり事例と出会い、博士論文のテーマもひきこもりでした。以来30年間以上、ひきこもりに関わってきましたが、近年ますます困難な状況を迎えつつあるように思います。最大の問題は高齢化で、「8050問題」という言葉に象徴されるように、いまや大多数のひきこもり当事者が、中高年と呼ばれる年齢に達しています。

厚生労働省では平成21年度から「ひきこもり支援推

進事業」を創設し、すべての都道府県と政令指定都市に「ひきこもり地域支援センター」を設置、平成30年度からは、生活困窮者自立支援制度との連携を強化し、訪問支援等の取組をふくめた手厚い支援を充実させるとしています。しかし、内閣府調査などですでに100万人以上存在することがはっきりしたひきこもりの支援体制としては、まだ十分とは言えない現状があります。

そんな中で青少年健康センターは、いまだ数少ない青少年問題の支援機関として存在感を発揮してきました。また、かつての宿泊型支援や当事者の居場所としては最初期に発足した茗荷谷クラブのように、時代の先陣を切るような斬新な支援スタイルを世に問うてもきました。当事者発信が注目される昨今、茗荷谷クラブにしても家族会にしても、これまで以上に当事者に配慮した活動スタイルに変わっていくことになるでしょう。現在のコロナ禍において、対面での家族会は開催できないため、Zoomを利用したリモート家族会に切り替えました。もちろん対面のような親密さや相互の交流は得られませんが、そのかわり自宅から当事者が気軽に参加できるといったメリットもあり、思いがけない形で新しいスタイルの家族会が実現しつつあります。Withコロナという時代状況に鑑み、フィンランドで開発された対話実践である「オープンダイアログ」の導入や、リモート対話実践といった新しい手法を取り入れつつ、当事者や家族のニーズに柔軟に対応できるような運営を進めていきたいと考えております。

今後とも会員ならびに理事の方々、事務局の方々のお力をお借りしながら、センターの発展に寄与していけるよう、また、これまで17年の永きにわたり会長としてセンターの活動を支えてこられた齋藤友紀雄前会長の後継として恥ずるところのないように、微力を尽くす所存です。

末筆ながら、以上をもちまして、着任の挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

副会長就任のごあいさつ



副会長 井利 由利

平素は青少年健康センターの事業にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。このたび私は、関川俊男副会長の退任に伴い、副会長の職務を受けることとなりました。果たして私に務まるのだろうかと不安でいっぱいですが、皆さまのこれまでと変わりのないご支援に支えていただきながら、何とか責務を果たしていきたいと思っております。

私と青少年健康センターのかかわりは、1991年、茗荷谷クラブに研修生として入ったことに始まります。当初は近藤卓先生がチーフスタッフで、そのあと、森規悦チーフ、そしてそのあとを継いだチーフスタッフとして現在まで30年余活動を続けて参りました。

齋藤友紀雄名誉会長、関川俊男名誉顧問には大変お世話になりました。また、現理事でいらっしゃる倉本英彦先生、藤堂宗継先生には、思春期の臨床、カウンセリング、サイコドラマなど多くの知見をご教示いただき、ご指導していただきました。私など、まだまだ先生方の足元にも到底及びません。また、茗荷谷クラブでは日々、スタッフ、メンバーの方々にたくさんのお話を教えていただき、育ててもらいました。これまで育ててくださった皆さまに深く感謝いたします。

茗荷谷クラブ開設当初は、「ひきこもり」という言葉はなく、家や社会に行き場を失った若者が、地域の根強い偏見の中、ひっそりと通ってきていました。初めて茗荷谷クラブに行き、メンバーの方々とお会いした時、当時の私の古いノートには「なんて透明でガラス細工のようなきれいな人たちなんだろう。この人たちが出ていけない社会っていったい何なんだろう！」と記されています。この思いは30年以上たった今も変わりません。

それでもひきこもりをめぐる社会の状況は変化してきました。1998年に現会長である齋藤環先生の『社会的ひきこもり 一終わらない思春期一』が出版され、ひきこもりが社会問題化します。2000年の佐賀バスジャック事件や新潟少女監禁事件など、ひきこもりに対する風当たりが強くなった時代、齋藤環先生がメディアに多く出て、事実を語ろうと奮闘してくださっていたことを覚えています。その時代の良い面としては、世間にひきこもりが周知され、多くの自助グループができたということが挙げられます。茗荷谷クラブにもたくさんの青年たちが来ていました。2002年には、故監物和夫事務局長を中心に「NHKひきこもりサポートキャンペーン」に参

画しました。

しかし、多くの支援団体が生まれ、ニート支援、就労支援が活発化する中で、青少年健康センターは経営の危機に見舞われます。課題はたくさんありました。青少年健康センターの社会貢献の理念の明確化、それに伴う広報活動、行政との官民協働の道を探ること、一つひとつを茗荷谷クラブが中心となってやらざるを得ない状況となりました。他のひきこもり支援団体にお話を聞きに行ったり、行政と掛け合ったり、それまでの在り方を大きく変えて、外へと発信していきました。

2010年に「子ども・若者育成支援推進法」が施行され、2012年に東京都若者社会参加応援事業の登録団体となりました。2014年には、文京区、世田谷区、2016年に台東区、2019年に葛飾区のひきこもり事業の委託を受けることができました。2014年に現事務局長の時盛昌幸氏に経営の立て直しをお願いしました。

私たちは、生きづらさを持つ若者たちに寄り添い、彼らのニーズに沿って、あるいは、彼らのニーズを見つけ出し、事業を展開してきました。その理念はずっと変わらず生きています。さまざまなひきこもり支援がある中で、私たちが守り続けてきたことでもあります。2012年には、青少年自殺予防のための電話、面接相談「クリニック絆」の開設、ほぼ同時期にひきこもりの方やその家族の方のための臨床心理士専門相談機関「茗荷谷クラブメンタル部門相談室」も開設しました。さらに、まだまだ誤解や偏見が多い中、ひきこもりの人たちの声を伝えていくことも大事なことです。彼らが生きやすい世の中は誰にとっても生きやすい社会なはずです。

昨今は、「8050問題」に言われるようにひきこもりの高齢化という新たな問題も現出してきました。文京区では、2020年、所管課を児童青少年課から生活福祉課へ移管し、15歳から全年齢を支援の対象としました。今後、福祉的支援を含めた、医療、教育等との連携がますます重要視されるようになるでしょう。青少年健康センターはどのような道を進むべきなのか、対話を重視し、話し合いをし、意見を聞きながら、脈々と続くこれまでの青少年健康センターの歴史と理念を大切にしながら精進していきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大学の研究に協力をしています！

～現在、協力可能な利用者の方やご家族の方に周知して以下の研究に協力しております。青少年健康センターは実践以外にもこうした形で協力をし、社会の中の生きづらさを少しでもやわらげるよう邁進していきます～

- 「物語作品と対話を用いたひきこもり支援のための介入方法の開発」
- 「ひきこもり『8050問題』に本当に必要な支援とは何か？」

研究責任者：パントー・フランチェスコ氏（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
研究責任者：花嶋 裕久氏（帝京大学心理臨床センター）

会費・寄付金・助成金・補助金報告（2020年8月～2021年7月）

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げます（敬称略）。

【正会員】 飯森眞喜雄 伊藤亜矢子 稲村 優子 岩佐 壽夫 岡 貴代 叶 香代 河野 治子 菊池 章
倉島 徹 倉本 英彦 近藤 卓 齋藤 務 笹原信一郎 鈴木 光代 関川 俊男 高山 智 玉置 正和
角田 忠之 中島 聡美 西村 秋生 日高 正枝 眞下 テル 宮田タマ恵 松岡太一郎 米沢 宏
計： **500,000円**

【維持会員】 岩本貴美子 遠藤 郁夫 遠藤幸代子 生出 美穂 大塚 慶子 大山 俊介 加倉井拓夫 北川由布子
小山田弥平 齋川 晃代 齋藤親一郎 佐藤 晶昭 佐藤 悦子 佐藤 正吾 佐藤 正江 鈴木 邦一 鈴木 順子
徳江 逸子 戸村みどり 藤井 幸子 松平 明子 丸山 邦子 三村 蓉子 宮崎 圭子 柳下 弘 渡辺 彰子
匿名18名
計： **430,000円**

【SW会員】 SW会費のみ 89名： **800,000円**

【寄 付】 稲村 優子 内田ひろ子 各務 真紀 鈴木 厚一 常廣 澄子 徳永 威典 中尾 好子 西浦加代子
西村 四郎 橋本 進 畠山 沙知 堀田八重子 本間 陽子 山下 真一 山下 正美 山下 保則 匿名4名
阿佐ヶ谷教会 西川口教会
計： **1,070,100円**

【助成金・補助金】
公益財団法人JKA 270,719円 東京しごと財団 1,573,000円
毎日新聞東京社会事業団 300,000円 READYFOR 4,297,220円
計： **6,440,939円**

2020年度決算報告

2020年4月1日～2021年3月31日

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常増減の部			
(1) 経常利益			
1 基本財産運用益	0	0	0
2 受取会費	930,000	900,000	30,000
3 受取補助金等	28,613,889	18,009,827	10,604,062
寄付金収入	10,383,829	13,772,617	△ 3,388,788
補助金・助成金収入	18,230,060	4,237,210	13,992,850
4 事業収益	90,529,732	84,834,468	5,695,264
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	89,850,150	81,726,884	8,123,266
公2 社会参加支援プログラム開催事業	0	0	0
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	0	375,000	△ 375,000
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	679,582	2,732,584	△ 2,053,002
公5 青少年自殺予防事業	0	0	0
5 その他の収益	4,591	2,049	2,542
経常収益計	120,078,212	103,746,344	16,331,868
(2) 経常費用			
1 事業費	102,041,861	101,067,673	974,188
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	88,213,688	84,154,059	4,059,629
公2 社会参加支援プログラム開催事業	602,194	1,156,620	△ 554,426
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	1,073,615	1,703,083	△ 629,468
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	6,801,996	8,617,596	△ 1,815,600
公5 青少年自殺予防事業	5,350,368	5,436,315	△ 85,947
2 管理費	9,947,433	9,479,466	467,967
経常費用計	111,989,294	110,547,139	1,442,155
当期経常増減額	8,088,918	△ 6,800,795	14,889,713

2020年度 補助・助成事業完了報告

2020年度において、下記の助成金を受け、各事業が完了いたしましたことをご報告いたします。

■公益財団法人JKA 2020年度補助事業

引きこもり・不登校に対する支援活動に対する補助事業

- ・「対話を重視した技法『オープンダイアログ』形式を用いた、ひきこもりダイアログ講座」
- ・「親世代の亡き後に備えるライフプラン講座と個別相談会」

■READYFOR 新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金

- ・「自殺予防のためのSNS相談システムの導入」
- ・「コロナ禍でも支援を可能にするオンライン体制の構築」

当法人の事業に対し、深いご理解ならびに温かいご支援を賜りましたJKA様、READYFOR様には、心より感謝を申し上げます。これらの事業の経験を活かし、さらなる支援事業の向上に努め、現在の社会情勢やニーズに適した支援事業を行ってまいりたいと考えております。

CENTER NEWS

2020年8月～2021年7月（敬称略）

8月

- ひきこもりダイアログ講座 30日
講師：斎藤 環（精神科医）【講師名以下略】*Zoom開催

9月

- ひきこもり家族のライフプラン講座 5日
講師：畠中 雅子（ファイナンシャルプランナー）
*YouTube動画配信
- 文京区ひきこもり等自立支援事業 茶話会 12日
於文京区民センター
- クリニック絆 電話相談員研修 16、30日
講師：藤堂 宗継（臨床心理士）
- ひきこもり家族のライフプラン講座個別相談会 19日より
3月まで開催（講師 同前）
- 茗荷谷クラブ ソフトボール大会 於目白台運動公園 25日

10月

- 文京区講演会「ひきこもり家族のライフプラン」 3日
講師：畠中 雅子 於文京区民センター
- 板橋区ひきこもり家族教室 5日より開始（月2回）
講師：井利 由利（当法人理事）・手塚久美子（当法人臨床心理士）
- 電話相談絆 電話相談員研修 14、28日（講師 同前）
- ひきこもりダイアログ講座 17日
於大正大学 *後日YouTube動画配信
- 茗荷谷クラブ 秋ハイキング 於ソラマチ 23日
- 江東区教育センター親向け学習会「高学年期のこころの成長と親の役割」 24日
講師：内島 真木（当法人臨床心理士） 於江東区教育センター

11月

- 台東区講演会「ひきこもり家族のライフプラン」 1日
講師：畠中 雅子 於台東区役所
- ひきこもりダイアログ講座 7日
於LMJ東京研修センター *Zoom同時開催
- 茗荷谷クラブ スポーツ大会 於江戸川橋体育館 18日
- 茗荷谷クラブ 親とスタッフの会 28日

12月

- ひきこもりダイアログ講座 19日
於連合会館 *Zoom同時開催
- 茗荷谷クラブ クリスマス会 23日
- 茗荷谷クラブ 女性限定の居場所活動「女子会」 19日

1月

- ひきこもりダイアログ講座 16日 *Zoom開催
- 電話相談絆によるLINE相談 試験的運用の開始 23日

- 東京都若者チャレンジ応援事業「若チャレ」オンラインイベント 30日
ゲスト出演：井利 由利 *YouTube、ニコニコ動画配信

2月

- 台東区若者支援育成推進事業 個別相談会 8日
於台東区生涯学習センター
- 茗荷谷クラブ ボーリング大会 於後樂園 12日
- ひきこもりダイアログ講座 20日 *Zoom開催
- 茗荷谷クラブ 40代以上の居場所「よつば庵」 24日

3月

- ひきこもりダイアログ講座 13日 *Zoom開催
- 板橋区保健所講演会「コロナ禍において不登校・ひきこもりとどう向き合うか」 8日
講師：井利 由利 於板橋区立グリーンホール
- 葛飾区講演会「家族での対話の『始まり』～オープンダイアログの視点から～」 13日
講師：大井 雄一（精神科医） *YouTube動画配信
- 茗荷谷クラブ 親とスタッフの会 27日

4月

- ひきこもりダイアログ講座 17日
於アカデミー茗台 *Zoom同時開催
- 朝霞農園活動

5月

- ひきこもりダイアログ講座 15日 *Zoom開催
- 東京都教育センター思春期サポートブレイス講演会「不登校やひきこもり状態の子供の心の声を聴き、考える」 15日
講師：井利 由利 於東京都子供家庭総合センター
- 台東区講演会「当事者から学び・考える ひきこもり等生き難さを抱えたわが子がいる家族のココロの快復術」 30日
講師：大橋 史信（ピアサポーター） *Zoom開催
- 茗荷谷クラブ 日帰り旅行（高尾山） 28日

6月

- 日本臨床心理士会研修講座「事例で学ぶひきこもり支援」 6日
講師：井利 由利 *Zoom開催
- 文京区講演会「ひきこもりダイアログ講座」 19日
*YouTube LIVE配信
- 武蔵野会ウェブセミナー「様々な生きづらさを知る～ひきこもり～ 多様な生き方ができる地域社会の実現」 26日
講師：斎藤 環 シンポジスト：井利 由利 *Zoom開催

7月

- 茗荷谷クラブ 親とスタッフの会 3日
- 茗荷谷クラブ カフェ活動「ゆったりカフェレオン」開始 5日
- ひきこもりダイアログ講座 10日 *Zoom開催
- 茗荷谷クラブ ハイキング 於横浜 14日
- 文京区ひきこもり等自立支援事業 茶話会 24日
於文京シビックセンター